

新ブランド 来春発売へ

フェムテック

女性の体 悩み解決

保冷剤や医療機器などの製造を手がける三重化学工業（松阪市大口市）が、生理痛や産前産後の痛みなど、女性の体の悩みを技術で解決する「フェムテック」に特化した新ブランド「ルーリエ（フルル）」を立ち上げた。商品開発に携わるのは、実際に悩みを抱える女性社員たち。第一弾として冷温兼用のジェルパックを開発し、来春の発売を目指している。（寺岡葵）

松阪・三重化学工業 当事者目線で開発

女性向けの商品は三年ほど前から、山川大輔社長や営業二部の宮下祐介課長が、取引先の産婦人科などから要望を受けていた。だが男性の二人には女性の具体的な悩みが分からず、約六割を占める女性社員に昨年十一月、生理痛や産前産後、更年期についてアンケートを実施。すると、さまざまな症状を抱えつつも「仕方がない」と、薬を飲みながら我慢していたことが分かった。

十代から五十代まで、営業や事務、工場勤務など、年代も仕事内容も多様な女性社員六人でプロジェクトチームを結成。アンケート結果を基に女性のさまざまな



女性が手取りやすいよう、デザインにもこだわった鈴蘭（左）と向日葵（右）の二種類を開発した。

第1弾 冷温兼用ジェルパック

な悩みに応える商品を作れないか、議論を重ねた。たどり着いたのは、形の異なる二種類の冷温兼用ジェルパック。五つのパックが横に連結した鈴蘭と豆形の「向日葵」、陰部に当たる「桔梗」。冷凍庫で凍らせることも、電子レンジや湯煎で温めることもでき、生理痛時に腹部や耳の後などを温めて痛みを和らげたり、冷やして産後の会陰切開の痛みを抑えたりする。同社は保冷剤と温熱剤を商品化しているが、冷温兼用や原色に乳白色を混ぜた色のジェルは、初めての試み。宮下課長は「配合が難しく、生産コストも高くなる」と悩んだが、女性社員

More Interesting Economy
みえ経済

らの「幅広い悩みを解決したい」「手に取りやすいよいかわいらしい色合いにしたい」という強い思いが後押しした。

女性ならではの配慮も。電子レンジで温める時に入れる不織布の袋は、陰部などに触れる商品を食品用レジシに入れてのことへの抵抗感を和らげようと、女性社員らが発案した。宮下課長は「男が作っていたらここまで思いつかない」と感心する。

これまで薬で生理痛を我慢していた営業の楊美娟さん（33）は「桔梗」を試し「下から温められてとてもリラックスでき、気分が上がったことは大切だと思った」と効果を実感。事務の安部陽子さん（40）は「女性には自分の時間を大切にしたい。男性がプレゼンしても喜んでもらえない」と

市場成長 認知度向上が課題

フェムテックは「Female（女性）」と「Technology（技術）」を組み合わせた造語。市場調査会社の矢野経済研究所（東京）によると、二〇二一年の市場規模は前年比7.7%増の六百四十二億九千七百円。二二年も9.0%増の七百一億一千三百

万円が見込まれ、成長の勢いは増している。背景には、女性の社会進出やシエンター平等などが注目される中で、さまざまな面から女性が働きやすい環境をつくることを重視する企業が増えていくことが挙げられる。オンライン健康相談や妊活サポート

などのサービスが、企業の福利厚生として導入されるケースも増えているという。一方、同研究所が九月にインターネット上で二十〜六十代の女性約一万人に実施したアンケートでは「フェムテック」という言葉の意味を知っている」と答えたのは5.8%にとどまり、認知度の向上が課題となっている。

定価（税別）は鈴蘭が二千七百円、向日葵と桔梗が二千二百五十円。薬局や雑貨店、サイトなどの販売を目指す。